

ミューズ
詩神の到来

夢幻の彼方から
夏の強い日射しの中へと
雪がやはらかに降りてくる

地面に届いたそれは
しみひとつ残さずに
ふっ、と消えてゆく

ただ日射しは透きとおり
その厳しい明るさとは逆に
涼しく僕の肌を通り抜けてゆく

予言を告げる鳥は
岩にとまって囀る
「やって来たのですわ、詩神が」

僕は嬉々として立ち上がり
両腕を広げ
掌を開いた

その掌に雪が吸い込まれてゆく
ああ、陽光よ大気となれ
ああ、^{こころ}感情よ大気となれ
僕はそれを抱くだろう

(1999.7.27)